

平成28年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3>	<h3>2 友達への思いやり</h3>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3>
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けていると思いませんか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>本校では、児童理解のための研修や朝会、子ども支援部会などを定期的に実施している。また、必要に応じてケース会議を開催し、支援を要する子どもの教育の在り方や具体的な支援方法等について、検討を重ねている。そういう取組の成果が、1「一人一人の児童生徒の尊重」において、4・3評価の合計が教職員100%であることや、3、4の評価をした児童95%、保護者94%という評価に表れている。これは、昨年度より大きく伸びている。今後も、適時にミーティングを開き、校内での支援体制を整え、組織としての対応力を高めていくとともに、外部関係機関等との連携をさらに密にし、児童一人一人の実態に応じた教育活動の展開に努めていきたい。</p> <p>3「道徳・心の教育の充実」では、保護者の4評価は増えたが、教職員の4評価は大きく低下した。本年度は、3本の道徳研究授業を校内で行うなど研修を深めると共に、毎週火曜日のV.S活動や10月の「なこよし集会」の取組等を通して、子どもたちの心の教育の充実を図ってきた。教師の意識の高まりが厳しい自己評価につながったと考える。今後も、道徳・心の教育の充実やいじめ・様々な問題への迅速な対応に努めるとともに、2と3の項目において保護者及び児童の1評価が見られるという事実を真摯に受け止め、日々の教育活動で児童の心に響く言葉かけや対応をさらに工夫し、家庭訪問や懇談会など様々な機会を利用して学校の取組を保護者に分かりやすく伝えていく必要がある。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3>	<h3>5 授業力向上</h3>	<h3>6 ICT活用</h3>
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いませんか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いませんか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いませんか。</p>
<p>昨年度に比べ、教職員の4評価が15パーセントほど上がっているのに対して、児童の4・3評価はやや低下しているという結果だった。校内研修や毎学期の授業公開交流週間の取組により、授業の質が高まりを教職員が感じていることは評価できるが、児童の1・2評価が13パーセントだったことを重く受け止める必要がある。</p> <p>今後は、さらに子どもたちがわくわくしながら積極的に参加でき、分る喜びを味わえるような授業づくりに努めるとともに、家庭としっかり連携した家庭学習の実施等により、児童の意欲的な学習態度の育成に努めていかねばならない。</p> <p>保護者の評価は、ほぼ昨年度と変わらないが、児童教職員の4評価はともに5パーセント上がっている。ここ数年、児童、教職員の3・4評価が上昇傾向にある。これは、教職員にICT活用の意識が定着しつつあり、児童も、ICT活用頻度の増加を実感している表れであると考えられる。今後は教職員同士の情報交換や教え合いを密にし、ICT機器の積極的な活用により、子どもたちにとって学習内容が見え、分かりやすい授業となるよう努めていく。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<h3>7 健康づくり</h3>
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いませんか。</p>
<p>昨年度と比べ、教職員の4・3評価が約10パーセント増えた。一方、児童については、3・4評価の合計が昨年から5パーセントほど低下している。「好き嫌いをなく食事」に関しては、日頃の給食指導、昨年より取り組んでいる「お弁当の日」による食育指導などをさらに充実していきたい。「適度な運動」に関しては、持久走や長縄跳びなどの全学級での取り組みのほかに日常的な運動を促す場の工夫や設定を今後も工夫したい。来年度は「生活習慣チェックカード」を有効活用し、子どもたちの健康生活習慣の定着がさらに進むよう取り組む。</p>

④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h3>8 児童生徒理解</h3>	<h3>9 いじめや問題への対応</h3>
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いませんか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いませんか。</p>
<p>昨年引き続き、児童及び保護者の4評価が伸びている。特に保護者の4評価は13パーセント上昇した。教職員の評価も3・4評価が100パーセントであり、児童の1・2評価も昨年より減少した。これも「一人一人を大切に、みんなで伸びる授業づくり」を継続して校内研修のテーマに掲げ、全職員で取り組んできた成果であり、児童理解朝会等の充実の表れでもあると考える。今後は、一人一人の児童理解に全力を尽くし、それぞれの良さや伸び等を、学級懇談会や学年・学級通信、学校だより等を通して、保護者へしっかり伝えられるよう努めていく。</p> <p>保護者の4評価が昨年度に比べ13パーセント上昇している。児童の4評価も8パーセント上がっている。一方、教職員の4評価は昨年度100%だったが、本エントは6パーセント減少した。これは、教職員のいじめ対応などに関する意識の高まりともいえる。いじめ防止対策委員会を核としながら、毎月の「きずなアンケート」の実施、全児童対象の教育相談期間などを設定など一人一人の子どもの実態把握に努め、課題に対応できる組織としての体制を整えてきた。そういう取組が教職員の自覚を高め、子どもたちへも伝わっているのではないかと</p>	

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h3>10 学校の支援体制</h3>
<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いませんか。</p>
<p>学校の支援体制については、保護者の4評価が昨年度の数値に比べて5パーセントほど上昇している。教職員は昨年度とほぼ変わらない数値になっている。日頃より今日職員同士で情報を共有し、チームで対応するという意識が年々高まってきている。6・3パーセントの保護者が1・2評価をしていることを重く受け止め、今後は学校での取り組みをしっかりと保護者へ伝えていくこと、チームで迅速に対応していくことを常に心がけていきたい。11「安全と事故防止」については、保護者の4評価が昨年より9パーセントほど上昇している。児童に関しては昨年とほぼ変わらない評価となったが、教職員は3・4評価が100パーセントになり昨年より高い評価になった。本年度は、過去に例のない震災を体験し、教職員もこれまで以上に日頃の安全管理や安全教育の大切さを痛感した。学校再開後も避難訓練、安全教育に対する意識を高め、共通理解のもと指導を行った結果の表れだと考える。今後は、起こりうる具体的な事例を想起しながら「事故を未然に防ぐ」ことを重視した取り組みをさらに進めていきたい。</p>

①子どもたちの身近な安全対策の充実

<h3>11 安全と事故防止</h3>
<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いませんか。</p>
<p>保護者の評価に関しては昨年度より4・3評価が増え、1評価も無くなったことから大きな向上が見られる。教職員に関しては4・3評価が100パーセントになった。震災後、職員の安全点検などへの意識の高まりが伺える。学校主事を中心に、危険箇所の補修等に迅速に対応できたことや特別教室の整備に努めたことも、児童及び保護者に伝わっているのだと考える。今後は、危険箇所の把握及び迅速な対応に心がける。</p>

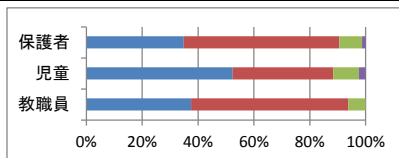
②最適な学習環境の整備

<h3>12 施設・設備の安全管理</h3>
<p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いませんか。</p>
<p>保護者の評価に関しては昨年度より4・3評価が増え、1評価も無くなったことから大きな向上が見られる。教職員に関しては4・3評価が100パーセントになった。震災後、職員の安全点検などへの意識の高まりが伺える。学校主事を中心に、危険箇所の補修等に迅速に対応できたことや特別教室の整備に努めたことも、児童及び保護者に伝わっているのだと考える。今後は、危険箇所の把握及び迅速な対応に心がける。</p>

③家庭・地域社会との連携強化

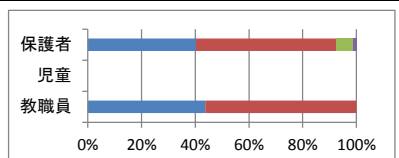
13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

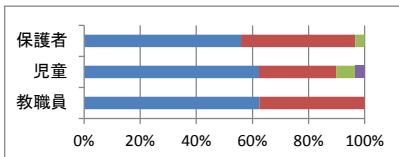


今年度も、10月の「なかよし集会」には、地域の方々にも参加していただいた。その他にも、1年生と老人会とのふれあい交流の他に、ミントの会によるふれあい工作会やミントの会と2年生とのふれあい給食、4年前から始めた6年生と老人会とのグランド・ゴルフ交流会等、それぞれに前年度までの反省をもとに工夫して実施した。子どもたちは、それぞれの交流体験を通して、地域のよさや人々の温かさを実感することができたように思う。教職員の4評価もぐんと増え、職員も、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると実感しているし、保護者の4・3評価が約9割と向上したこと、学校の取組をある程度感じていただいていることが伺える。「連携・協力」が足りないと感じている保護者が昨年度より少なくなったものの、まだ7%存在するということや、13「教育方針・目標の理解」において、1割の児童・保護者が、十分理解できていないという事実がある。今後は、もう一歩、保護者や地域へ歩み寄り寄る気持ちを全職員が持ち、より「地域・社会に開かれた学校」を目指し、学校だよりや学年・学級通信、また、PTA総会や学級懇談会等、機会を捉え情報の発信に努めていくとともに、学校の教育方針や目標についても分かりやすく伝えていく必要がある。

本校の教育

15 安心できるくらし(徳)

子どもたちが安心して過ごせる学校になるように取り組んでいますか。

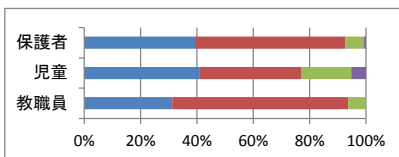


15「安心できるくらし」については、4評価を昨年度と比較すると、保護者は上昇しているものの、教職員、児童は低下している。4・3評価の合計で見ると、教職員100%、児童89%、保護者97%と、取組に対する満足の高さが高い。教育相談の充実、毎月のアンケート、その他、日々の活動の中で何かあればすぐ対応してきたことが、子どもたちの安心感につながり、子どもの声や生活を通して保護者へも学校の姿勢を感じていただけたのではないかと考える。また、これは、全ての授業において「友達のを聞き、学び合う」ことに力を入れて取り組んできたことにより、児童一人一人が安心して発言できるようになり各学級の支持的風土づくりが進んだ結果であるとも言える。

16「学び合いの授業づくり」については昨年度とほぼ変わらない評価になっている。児童の24パーセントが2・1評価であることから、今一度、「聴き合う」授業という視点で学びあう時間・場の設定について省察し、次に進んでいく。

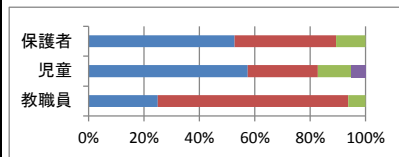
16 学び合いの授業づくり(知)

すべての授業で、子どもたちが、友達の意見を聴いたり、自分の考えを伝えたりして学び合う時間(場)を設定していますか。



17 進んで運動に親しむ(体)

子どもたちは進んで運動に親しんでいますか。



4・3評価を見ると、保護者89%、児童83%、教職員94%という結果で、体育主任を中心とした、一輪車やタグラグビー、ボール運動、体づくり運動、なわとび等のいろいろな運動の紹介や担任からの声かけにより、進んで運動に親しむ児童の割合は比較的高い。ただ、児童の1評価が5% (9人) という状況もあり、今後も、運動する意義を伝えながら、児童の運動習慣の確立に努めていく。

来年度の具体的な取り組みについて

- 今年度の学校評価をふまえ、下記の8点について、全職員一丸となって取り組む。
- 年度初めの家庭訪問や各学期の学級懇談会を充実させるとともに、日常的な家庭訪問や電話連絡等の機会を活用し、こまめな連絡により保護者との信頼関係を築いていく。
- 学校だよりや学年・学級通信等の内容をさらに工夫したりして、学校の教育方針や取組を分かりやすく伝える。
- VS活動を柱としたボランティア活動や道徳の授業、自主的実践的態度を育成する特別活動を中心に、心の教育のさらなる充実を図る。
- 今年度までの研究テーマを継続し、「学び合い」を柱に、確かな学力の向上と自尊感情の育成に努める。
- 定着してきた「ノーテレビ・ゲーム・スマホデー」の取組に、「生活習慣チェックカード」の活用による健康習慣の振り返りを組み入れ、健康生活の定着を図る。
- 体育の授業や業間活動を充実させ、体力向上を図る。
- 定着してきた「弁当の日」のさらなる充実に向けて保護者と連携を密にしながら取り組み、児童の「食」に関する意識の高揚や感謝の念、生きる力の育成に努める。
- 学校独自のいじめ防止基本方針を見直し、いじめのない学校づくりのため、人権意識を高めるとともに、教育活動全体を通して、互いに認め合う人間関係の構築に努めていく。

学校関係者評価

本年度、9つの項目において保護者の4評価の向上が見られた。特に、8「児童生徒理解」9「いじめや問題への対応」においては10パーセント以上上昇した。これは、5月の学校再開後から担任・養護教諭を中心とした教育相談の場の設定や各機関との連携、学校カウンセラーの活用などをはじめ、保護者との連絡を日頃から密にしていたことの成果である。また、学校が学級懇談会の内容充実にも努め、学校だより及び学年・学級通信等を活用し、日々の教育活動や力を入れている取組等について積極的にPRしたことが、保護者にも伝わったのではないかと考える。今後も、引き続き、教育活動の充実や保護者及び地域への情報発信に努めたい。